平成26年度奈良県森林審議会 林地開発審査部会（第2回）議事要録

日時：平成26年11月10日(月)

午後3:00～午後4:30

場所：奈良婦人会館

1階中研修室(3)

1 開 会

2 挨拶 佐野森林整備課長より挨拶

・森林審議会の規定第4条第4項 林地開発審査部会での審議案件である旨説明。

・前回(平成26年9月4日)諮問いただいた御所市の案件については、先日、許可を出したことを報告。

3 委員紹介(部会長以下五十音順)

水本部会長 岡崎委員 小森委員 田中委員 松村委員の出席を紹介

4 定数報告

委員5名中5名出席のため、半数を超えているので会議成立。

5 配付資料の確認

6 議長の選出

奈良県森林審議会規程第4条第3項の規定に基づき、議長は部会長が務める。

7 会議の公開

平成16年度の審議会において原則公開を決定し、特に非公開となる案件ではないため、公開とする。傍聴者はなし。

8 議事録署名委員の指名

松村委員、小森委員を指名。

9 議事の進行

知事からの諮問案件は、第1号案件1件。

10 概要説明

事務局より概要説明

- ・申請者：東京都千代田区丸の内三丁目1番1号東京共同会計事務所内
Kグリーンエナジー奈良株式会社 代表取締役 前田 充

- ・開発行為の目的 : 太陽光パネルの設置
- ・事業又は施設の名称 : 天理市ソーラーパーク1号
- ・所在 : 天理市福住町5509-3 他58筆、桜井市大字小夫2280 他2筆
- ・事業内容 : 天理市が工業団地を誘致しようとして購入した土地を、メガソーラ用地としての活用しようとするもの。事業者が天理市の土地を賃借し、さらに、関西電力との契約発電量を確保するため他人の同意を得て事業地を一部拡大(天理市1筆、桜井市4筆)して、メガソーラ事業を行うもの。開発行為に係る森林面積 : 34.7474ha
- ・その他 : 今回の事業地は、周辺に希少植物が自生している区域があるため、関係官庁や学識経験者等専門家の指導により保護に努める。

11 質 疑

岡崎委員) 開発区域は、周縁だけではなく、奥地にも希少な植物が多い場所。奈良県の希少動植物の保護の条例に抵触するのではないかな?

→事務局) 現地では、業者と希少野生動植物保護専門員の森本範正氏立会の上、周縁の保護対象となる希少種の株は確認している。それ以外の希少種等も森本氏から移植を頼まれており、業者は了承している。

岡崎委員) 「見つかりませんでした。」「切ってしまいました。」では本末転倒。

- ・関係課と摺り合わせをして、生物多様性の保全から、希少種を残せるような許可条件を検討して欲しい。
- ・希少種の保護については、森本先生の意見をしっかり聞いて、それを生かす形に行政指導してもらいたい。

→事務局) 希少種の保護については、許可条件に付するなどの対応を考えたい。

岡崎委員) 今回、申請者は、Kクリーンエナジー奈良株式会社となっているが、以前に当該地で会った事業者は、メガソーラージャパンと言っていた。どういうことなのだろうか。

→事務局) ・天理市の公募によりメガソーラージャパンが、当該地で太陽光発電を行うことになった。事業運営については、関連会社 K クリーンエナジー奈良株式会社が行う。

岡崎委員) 現地での希少種等の話をした業者から、今は別の業者になっているが、話は伝わっているのだろうか。

→事務局) コンサルティングは、オータムカンパニーが一貫して行っているため、メガソーラージャパンからKクリーンエナジー奈良株式会社になっても、引き継がれている。

岡崎委員) 今回34haという面積なので、本来なら環境影響評価が必要な面積ではないか。

- ・今後の課題として考えてもらいたい。
- ・許可後、アセスにより覆ることはあるのか?

→事務局) アセスを必要とする場合は、まずアセスを行い、その後に許可申請となる。今回の場合、太陽光パネルの設置であるため、アセスの対象となっていない。

- ・法律を遡及して適用できないので、アセスをかけることはできない。

・アセスについては、次の課題として、環境政策課等に意見あった旨伝える。

田中委員) 事業の担保として、途中で事業を断念されたとき、誰が現地復旧されるのか？

→事業者と天理市との賃借契約がなされているので、太陽光発電事業の実施は担保されている。天理市との契約内容を確認するため、契約書の写しを提出させ、確認しておく。

田中委員) パネルから直に地面に雨水が落ちると地面が侵食される恐れがあるので、その対策を行うこと。

→事務局) 業者に確認した上で、指導する。

田中委員) 奈良県として太陽光発電のガイドライン的なものを定めるよう、関係課と検討してもらいたい。

→事務局) 今後の課題として検討する。

松村委員) 土堰堤が、1:1.8の勾配の盛土では不安定なのではないか。勾配は1:2.0以上とし、水が回らないよう、シートなどで遮水する必要があるのではないか。

→事務局) 業者に確認のうえ、指導する。

12 採決

各委員からでた意見に対しては事務局で対応案を作成し、委員に確認してもらった上で、部会長一任として議決する。